

令和元年度（2019年度）第1回北海道子どもの未来づくり審議会 議事概要

日 時 令和元年5月28日（火）18:00～20:00

場 所 かでる2・7 730会議室

出席委員 松本会長 / 野村委員 / 梅田委員 / 亀井委員 / 末原委員 / 山田委員 / 高階委員 / 平井委員 / 五嶋委員

事務局 花岡子ども未来推進局長 / 鈴木子ども子育て支援課長 / 森本自立支援担当課長 ほか14名

議 事

[審議事項]

(1) 第三期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」の評価と推進状況について

○事務局から資料1と4に基づき説明。

○委員の主な発言（要旨）

- ・ 重点施策目標2の中の「地域における子育て支援体制の充実」については、何を支援して活性化してきたのかが分からない。拠点事業として設置目標にとどまってお
り、サービスの質の向上の観点が見えない。

(2) 第四期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」策定の基本的な考え方について

○事務局から資料2-1～2-6に基づき説明。

○委員の主な発言（要旨）

- ・ 「ライフデザイン支援」は根本的に間違っていると思う。若者たちの多くは、自分のキャリアパスをしっかりと描いているものと思う。むしろ企業側が若者たちのニーズにしっかり対応できないことから、就職しないだとか、道外や海外に人材が流失してしまっている。ライフデザインを描けていない若者は少ないと思う。
- ・ 「次世代教育の推進」は、若者だけに焦点をあてるのではなく、企業の役割や社会全体の取り組み推進も必要ではないか。
- ・ 少子化になった原因は、子どもを生むと自分のしたいことが出来ないからだというイメージがあるが、昭和の時代は、結婚、出産、子育てが当たり前だったが、今は難しくなり、結婚を希望することが出来ない状況なのではないか。若い人を取り巻く環境にも焦点を当て、社会や企業に求めることもあるのではないか。
- ・ 男女平等の観点から、家事などは男女ですべきであり、生活面についても盛り込まれるべきではないか。
- ・ 「ライフデザイン支援」をステージとすることだが、「地域の環境づくり」に関連していると思う。ステージの並びを、「ライフデザイン支援」と、「地域の環境づくり」を合体させ、一番前に出す又は最後にすることを検討できないか。

- ・ 雇用環境等の整備と、仕事と育児の両立が分かれていることに違和感がある。就労環境の整備などとして、勤務時間と賃金の両方について盛り込んではどうだろうか。

(3) 北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会の運営について

○事務局から、資料3に基づき説明。

○委員の主な発言（要旨）

- ・ これまでのあり方を見直して、より良いあり方を検討することは、とても大事なことだと思う。
- ・ 2回に分けてグループワークを行い、知事に提言する形としては、テーマの焦点が広すぎたと思うが、焦点を狭めて施策について聞くのも難しい部分がある。それぞれの地域・学校で行っている取り組みなど、子ども達が日頃感じていることを事前にアンケートなどで集約してからテーマを選ぶ方法もあるのではないか。
- ・ もし自分の子どもが参加するときに、何を発表して欲しいかなと思うと、大人達を見て、今どう思っているか、自分達はどのような未来を生きていきたいのかなどである。これらに焦点を当てて話してもらった方が、望ましいのではないか。
- ・ 子ども達の本当の意見を聴くためには、母子家庭や父子家庭で育つ子ども達の意見が大変重要ではないか。アンケートによる意見募集は大変賛成だが、抽象的な意見が出る可能性が多分にあるのではないかと。
- ・ 子ども達にとって、大切な経験になっていると思う。経験をもう少し広げていけるような取組みがあるといいと思う。
- ・ 学習支援、子ども食堂といった場が増えており、そういう場で開催してみて、子ども達の困りごとや、子どもから見た大人のこと、将来のことなど、話し合ってみても良いのではないかと。